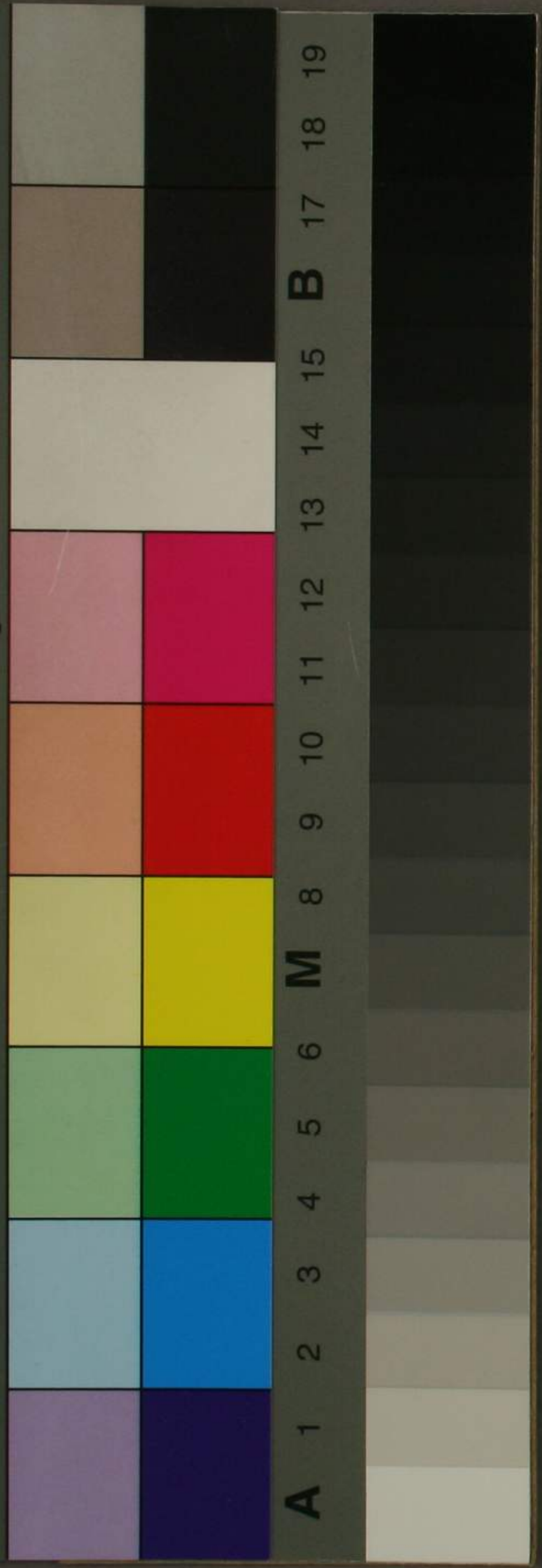


KODAK COLOR CONDITION PATCHES
LICENSED PRODUCT
© The Tiffen Company, 2000



1970
1



四五寸のついでに

馬草の糸々く白玉ハ葉の葉 一箇堂

つらね其風巾ハ花ね羽按鳥

陽乃ハ花ねハ陰の養々

らまねくハ花ハ向を

鹿目ハ扇ハ冬乃蠅の羽



髪剃しし髪柄乃白わり
盆りくら杖と女のなりき
△ △

曲りーおとりのり

蘭作の綿と糸目のほりて
△ △

か人への対する及まの蘇
△ △

前段と揃はらさるる
△ △

終るはくはく

頭棚に著流しぬ山道の飯
△ △

うしろ向うらうらう
△ △

道下日へおぼつぬ死の歩
△ △

あ方きー同ーゆく

眠る目も開くはるる多の昼
△ △ 日可 池柳

入るのあきへさるおあり

一ちつてきてしる商の陰
△ △ 藤原

うーくーくーくー

飯しふくーくーくー
△ △ 坊明侍 井蛙

こゝろ代あつらひの結むすり

^馬踏ふる字が杖もノの字し

今

延のりかのり

^今并なハハかのゆの髪の楔くわみく

仙水

やのたの山のふの流の水

^る味あじもも節ふしももえの地ぢもも一い碑いのの昔むかし

市券 一種

^虫大おほ海うみのの夕ゆふかの死しとのあのりぶい

今

横よこににあのりのあのりの

書かのの向むかひの落おちの下したにに書か

申候

らのての席せきくのてのら

^馬草くさもものの一い行い燈とうののこのたのて

柳枝

^今薬くすり花はなのの背せ々々羽うののさのりのて

介見

吹ふきのあのりの海うみももあのりのあのりの

初心

今

^馬碾うりの日ひ邦くにのの周しゅうもものの日ひのの撫なり

上野氏

所も

いのちの夜よももあのりのあのりの

金羽 舞うに刻む佛の衣のひびき 川崎 雷川

道に細く海のつらさ しづか 川

波は長く しづか

鳥 白鳥の翅のつれづれ 宮鶴

うららかに しづか

唯禽 負うの其ま 出陣

色に しづか

ま と徳政田郡

伸つ しづか

羽 東子

石 しづか

鳥 いけ 日列上濁

と しづか

波 妙柳

朝日 しづか

金羽 とうとうとや 鶯方々 郭公 雪丸

今 清くくれば 末ハニとら 今所 山陰

ツカミ の字と 尾の 蕨れ 尾 今所 山陰

日表や 漆ツルシうみの 新ニ口 一里 鏡タマシは柳ヤナギ

今 此のいとも ころころの形

陶タマや 疾ハヤりつとれ 生ナし 今

るくく かんまきうに

唐カラ乃ノを 倭ヤマトのか ち乃ノ自ミ心ココロ 今

今 又のゆ乃ノ地チあも 足タラシ水ミヅの 同所 膠カウ狂キヤウ

席セキや ねのの 溜タマ葉ハの 今

乃ノに 夜ヨひぶ かつの 香カウ物モノの 今

入イるもの ありし ちやゆ

生ナる 死シの 國クニと ちやゆ 返ヘの 宅ヤ 今 武タケ列レ上ノ 星ホシ夜ヨ

一ヒトと びつ ちやゆ

今

今

今

今

今

白 雲の如く傘のうらみは揚下し

川を渡るハニふるもれ

白 定規わて又ゆか海の敷る

籠し長しく籠し

白 花造に海の日陽の敷余り

籠し海の日陽の敷余り

白 糸をそした形しよ一指の光

かきくくくくくくくく

白 洋流スは乃空を流る心

あつてくくくくくく

白 雛の店も女も右もまつた

冥腸 妻方より同いん

物牛込の形倍と眼燈の徳りて 螢雪

鳥 空から降るも苦界の羽

合 合スハ汗心多のこま車

あつてくくくくくく

若まのふに河一生の割サなく 水象同可

あつてはらう家の白玉

今同可 金同可 金同可 二凡

実脇同可 二ツとちけし風

金同可 玉水對可佳

弦音に集くとせぬる乃羽同可

折れといふでい同一基の位

回くか換りか

馬同可 水客

長く怒り

家ユゲや湯畑ユゲの端ユゲるさがる原 隻

あくか換りみ

ワの情同可を情同可ふつめ清の位 金象

情同可ふまゝハ一考と相し

水同可汐と千鳥同可跡同可ハ分同可に 柳皮

あまう早同可きた目同可み

馬 死乃的曆乃泊の道行
善山

煩悩カクシキ 纏マシ 少カクシキ 多カクシキ の 坂
白

人界カクシキ ハ花と苦の府カクシキ 友カクシキ 慕カクシキ
白

白 舟カクシキ や押カクシキ りカクシキ 舟の舟カクシキ 家カクシキ の楫カクシキ
白 舟カクシキ 換カクシキ りカクシキ 舟カクシキ

馬 七カクシキ 遊カクシキ の遊カクシキ マカクシキ 日カクシキ 遊カクシキ の教カクシキ
肥後住 横舟

振カクシキ りカクシキ 吉カクシキ 交カクシキ 舟カクシキ の水カクシキ の花カクシキ
栴林

馬 笑カクシキ の口カクシキ の目カクシキ の脛カクシキ
脛曲

亭カクシキ 亭カクシキ 亭カクシキ 亭カクシキ 亭カクシキ
迹溪

あまのり同り

馬身とくまよきうげん指の宿所 丹陽住 致曲

ひらきのおとさうてい

詩と綴らふよきのときあ 合

詩の法と歩まの事のあ 合

合

畫りきてるぬ書の指 業岩安茂 如桃

その人れつとうらり 合

ゆるぬ氣おゆまうの 合

かゝる方の信

うつとたにまぬ玉の故 合

苦のめうの風多利毛の 合

ゆりあふぬまの舊の 合

人の死の車の敷の 合

形の色を格くの形

掌に 合 惹きつきの伸縮 老登

縦一色一く縦二

大綱

簫乃律フキモノと竹の一節ノ

村井氏 答嘆

揮ウるレんハねハ評ハのノ糸ハのノ端ハ

馬ウマうマ物ハもハ撥ハもハ一ハ束ハ

にハ糸ハのノゆハかりハ

金羽カナウ見ミんハのノかハぬハかハるハ疾ハりハてハ 小門町 紙書

とハまハあハらハうハまハりハりハ

後ノのノとハくハてハ進ハきハ一ハとハ十ハ 相陽 木

一ハとハまハらハうハまハりハりハ

押オシ又マタ字ジ乃ハ律ハとハ板ハ本ハのノ答ハぬハしハ 小

あハらハうハまハりハりハ

丁チヨウとハくハてハ望ハみハよハまハのノ力ハ板ハ 小

伸ノビらハうハまハりハりハ

たタらハうハまハりハりハ 音ネ中ナカ推オシ搦ノ人ヒト 加勿 一ハ身ハ

ちチてハらハうハまハりハりハ

槿キキ乃ハ次ジこハらハうハまハりハりハ 糸イトのノ繩ヒモ 小

ゆユらハうハまハりハりハ

△ 人 影と雲れ境の奥へて △

△ 雨のりりり神の秘 △

△ 歌のたの拂子とほの玉帝 △

△ 文のつづふとりの蟬の鳴 △

△ 鳥 人らりちよもの御ら △

△ 照りて日のながしよ空下 △

△ くらりくらりあめあめ △

大関 地部りちよりのもの 鼓 釘鴨

泣き石と涙に流る光

そのぬれこころをさる一麦

関脇 麻のよのく神の御ち方又も 仙花

その業乃右とるハ知れ

その花のほろろとむい

三照る早苗の軟子竹

正水

菅の蒲の一本根シロヤチ渡り雲

氷の池をわさりの扇のしんまきで

いりり指の甘き七の文

花のしんまきに自然うきしる籠

月と色しる籠の鼻白家

柳を柳のねまおの

行ましる籠の籠

やうやくせうせん車月車
法流くぬふ家と^{ナカ}常^{ナカ}坂
まゝのうらと^ニ流^ニく^ニし^ニ流^ニ流^ニ流^ニ
まゝのうらと^ニ流^ニく^ニし^ニ流^ニ流^ニ流^ニ
りのか^ニし^ニる^ニ流^ニく^ニし^ニ流^ニ流^ニ流^ニ
戸^ニま^ニく^ニし^ニる^ニ流^ニく^ニし^ニ流^ニ流^ニ流^ニ
ま^ニく^ニし^ニる^ニ流^ニく^ニし^ニ流^ニ流^ニ流^ニ
ま^ニく^ニし^ニる^ニ流^ニく^ニし^ニ流^ニ流^ニ流^ニ
ま^ニく^ニし^ニる^ニ流^ニく^ニし^ニ流^ニ流^ニ流^ニ

流

流^ニく^ニし^ニる^ニ流^ニく^ニし^ニ流^ニ流^ニ流^ニ
流^ニく^ニし^ニる^ニ流^ニく^ニし^ニ流^ニ流^ニ流^ニ
流^ニく^ニし^ニる^ニ流^ニく^ニし^ニ流^ニ流^ニ流^ニ
流^ニく^ニし^ニる^ニ流^ニく^ニし^ニ流^ニ流^ニ流^ニ
流^ニく^ニし^ニる^ニ流^ニく^ニし^ニ流^ニ流^ニ流^ニ
流^ニく^ニし^ニる^ニ流^ニく^ニし^ニ流^ニ流^ニ流^ニ
流^ニく^ニし^ニる^ニ流^ニく^ニし^ニ流^ニ流^ニ流^ニ
流^ニく^ニし^ニる^ニ流^ニく^ニし^ニ流^ニ流^ニ流^ニ
流^ニく^ニし^ニる^ニ流^ニく^ニし^ニ流^ニ流^ニ流^ニ
流^ニく^ニし^ニる^ニ流^ニく^ニし^ニ流^ニ流^ニ流^ニ

流

